



ハート保育園 1月の病児室だより

お預かり日：月～金 お預かり時間：8：30～17：00 TEL：098-989-0045

沖縄県において、百日咳の患者さんが増加傾向にあるとの発表がありました。

百日咳は、飛沫感染や接触感染で感染し、感染力が強く乳幼児が感染すると重症化することもあります。

感染対策には、予防接種が非常に重要ですので、生後2か月になった乳児では速やかに4種混のワクチンの接種を開始しましょう。乳幼児でまだ受けてない場合は早めに接種しましょう。

<百日咳とは>

特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。母親からの免疫が十分でなく乳児期早期から罹患する可能性があり、1歳以下の乳児、特に6か月以下では死に至る危険性も高いとされています。百日咳を含む4種混合ワクチンを接種することで予防できるといわれています。

この病気は、通常7～10日間程度の潜伏期間を経て発症し、回復までに3か月を要します。

- 1、カタル期：約2週間持続、初期は軽く風邪症候群のような症状。次第に咳の回数が増え激しくなります。
- 2、痙咳期：約2～3週間持続、次第に特徴的な発作性痙攣性の咳となる。短い咳の連続的に続いて、息を吸うときに笛のようなヒューヒューという音があり、この様な咳発作を繰り返す。時に嘔吐を伴い、咳発作は夜間に多くみられます。
- 3、回復期：約2～3週間以上持続、激しい発作は次第に減衰する。
発作による体力消耗は激しく、不眠や脱水、栄養不良著しい場合は入院治療が必要となる。

咳は、大人でもきついことです。子供ならなおさら上記に記載されているように、咳による睡眠不足による体力消耗や、脱水、食欲不振を起こしやすくなります。

現在は、感染者が増えてきている為、小さいお子さんは人混みを避けるようにしましょう。また咳が持続する際は、早めに小児科受診し、感染拡大を防ぎましょう。

12月の病児室利用者病名：急性上気道炎、手足口病、中耳炎、溶連菌感染、気管支炎